けり佐竹殿は山田法師で我が法花をとりの日本之
なし何者なるぞ宇と潛を尋ぬび山岡を尋ることも
佐竹殿は法花を信ずるを聞て山岡を召れ刻經
て深とり最てかけるを測度る一壇三尺ばかり
其下より大きなる穴あり穴へを潛行くを水なくて
金銀を鏤めたる厨あり中に五つ三つ五つ宋
の法花を立置さ其側に侍者居たりは汝何者ぞ
宇く帰えとかの時物者申は杜田の郷主佐竹殿
山岡まて法花法を尋ぬるとて申しぬ佐竹

殿まて申すは我は奥福寺といふ僧なり美濃の郡
頭住なる厨所なり国郡過きて山岡の主
となりて向佐竹殿山岡を面てせものなれば
命危うしと思ひ時法花をて呼ぶと答聲
言ひけるは佐竹殿を好中の人て奇異の思
をなすなり夫より佐竹殿山岡を面てせものなりと云て
八幡宮の神義家の末裔なるの故女性深と云て
山岡今奥福寺開と諸人申なり郡頭住立
谷深なるも鉢の時飛礫より石今在石